

令和5年度岩泉小学校まなびフェスト学校評価（自己評価）

I 2学期まなびフェスト「学校の取組」結果について

1 「みずから学ぶ子ども」

※網掛けは目標未達成項目

NO	項目	2学期	1学期	1学期比
1	「わかった」「できた」が実感できる授業展開します。 ※児童アンケート「授業の内容がよく分かりますか」（国・算）の肯定回答90%以上	89	91	↓ -2
2	学年に応じた家庭学習の習慣を身に付ける取組を行います。 ※児童アンケート「学年に合った時間（学年×10分）の家庭学習ができていますか」肯定回答80%以上	86	87	↓ -1
3	本に親しみ、望ましい読書習慣を身に付ける取組を充実させます。 ※年間目標達成状況達成率80%以上（2学期分1・2年55冊、3・4年40冊、5・6年25冊かつ2500頁）	44	70	↓ -26

※読書の達成状況は12月上旬時点

【考察】

No. 1 「『わかった』『できた』が実感できる授業を展開します。」について

各授業者が児童の「わかった」「できた」を実感させることを意識した授業づくりのために、校内研究のテーマでもある“授業のユニバーサルデザイン”を意識して取り組み目標を上回ることができた。

授業の中で、「わかった」「できた」を積み重ねることにより児童が主体的に学ぶ力を育むことを目標に掲げているが子ども主体の学びが実現できているとはいえない。今後も子ども主体の学びを意識しながら、ねらいとする力を確実に身に付けさせていく授業づくりの実現に向けて力を注ぎたい。

No. 2 「学年に応じた家庭学習の習慣を身に付ける取組を行います。」について

家庭学習強化週間や担任の指導、評価がきちんと行われていることについて、保護者から高く評価していただいている。その中で、なかなか家庭学習習慣が身に付かない児童への指導、支援については、家庭の協力を得ながら進めていきたい。

また、家庭学習の取組をさらに充実したものにしていくためには、「家庭学習は何を目的に行わせるのか」について教職員で共通理解を図る必要がある。児童が家庭で学習を行う意義を自覚し、自らの意思で取り組めるようになることをめざしていきたい。

No. 3 「本に親しみ、望ましい読書習慣を身に付ける取組を充実させます。」について

読書の推進は、今年度の重点の一つである。職員・図書ボランティアによる読み聞かせ、児童会の取組、町立図書館との連携などさまざまな取組を展開してきた。目標達成状況は年間読破目標の達成状況で評価することとしているが、2学期末の段階で目標達成にはいたっていない。学校としての取組や家庭での読書の取組の評価は1学期より改善傾向にある。本校の教育活動に照らし、目標の設定が妥当だったかどうかも含め、検証する必要がある。

冊数やページ数による目標設定は、読書意欲向上への外発的な動機付け（きっかけづくり）と捉えている。数値のみにこだわらず、本を読むことの楽しさを味わわせることも大切にしていきたい。

また、校内の読書環境の充実のために、今年度は図書ボランティアとして2名の方に活動いただいている。外部の方の力も借りながら読書環境整備にもさらに力を入れていきたい。

2 「思いやりのある子ども」

NO	項目	2学期	1学期	1学期比
4	自分から進んで元気なあいさつができるよう指導します。 ※児童アンケート「いつでも・どこでも・自分から進んで挨拶をすることができている」肯定評価90%以上	83	85	↓ -2
5	前向きな言葉かけによる信頼関係の構築に努め、児童の自尊感情を育みます。 ※「自分にはよいところがある」の肯定評価90%以上	74	80	↓ -6
6	縦割り班活動などの異年齢集団活動を充実させ、自己有用感を育みます。 ※児童アンケート「縦割り班の人と協力して仲良く活動することができていますか」の肯定評価80%以上	94	97	↓ -3

No. 4 「自分から進んで元気なあいさつができるよう指導します。」について

本校の重点として以前から定めている項目である。昨年度まで、肯定評価を80%と設定し達成することができたため、今年度はさらに目標を高く設定して取り組んだ。83%は低い数字ではないが、個人差があったり、相手によってはあいさつできなかつたりという実態もあるので、次年度以降も引き続き取り組んでいきたい。

No. 5 「前向きな言葉かけによる信頼関係の構築に努め、児童の自尊感情を育みます。」について

今年度、前向きな言葉かけ（ペップトーク）を通じ、児童と教師、児童と保護者の信頼関係の構築を図り、児童の自己肯定感を図ることに重点をおいている。そして、児童の自己肯定感を図る指標として、全国学力学習状況調査の質問紙項目にある「自分にはよいところがある。」のアンケートを全校児童対象に実施し、本項目の達成状況を検証することとした。教職員・保護者とも取組評価は高いが児童の評価は目標に達していない。職員・保護者がペップトークについて学ぶ機会（町教研講演会、家庭教育学級）を設けることで大人の理解は深まった。引き続き、一人ひとりの児童を受容し、適切な場面で承認・励ましの言葉をかけることを意識しながら児童に接していくとともに、児童自身も自らの言葉かけを意識できるような体制づくりをさらに進めていきたい。

No. 6 「縦割り班活動などの異年齢集団活動を充実させ、自己有用感を育みます。」について

縦割り班活動は、本校の特色ある教育活動の一つであり、長く続くこの取組は、保護者からも高く評価されている。児童は、縦割り班活動において、異学年の児童とも仲良く協力しながら活動できていると評価している。教職員は、この活動を通して、『自分は他の人の役に立っている』という自己有用感を育むことをねらいとしていることから、さらなる指導の充実を望む声が多い。次年度以降も継続していきたい。

3 「身体をきたえる子ども」

NO	項目	2学期	1学期	1学期比
7	運動に親しみ、技術の習得や体力の向上に進んで取り組む活動を充実させます。 ※休み時間の運動、マラソン、縄跳びの取組アンケート肯定評価80%以上	79	85	↓ -6
8	「早寝・早起き」「食育」など、健康的な生活習慣を育む取組を行います。 ※児童アンケート「早寝・早起き・朝ごはん」を守っていますか。」の肯定評価80%以上	81	85	↓ -4
9	メディアコントロールの習慣や情報モラルを身に付ける指導を充実させます。 ※児童アンケート「若きっすのネットゲーム宣言やわがやの決まりを守っていますか」肯定評価80%以上	82	80	↑ 2

No. 7 「運動に親しみ、技術の習得や体力の向上に取り組む活動を充実させます。」について

運動習慣の形成、体力向上に関しては、児童・教職員・保護者とも高い評価となっており、一定の成果を上げている。熱中症警戒のための運動中止や感染症対策のための実施内容変更等もあり、「元気アップチャレンジ」（60 プラス）などの取組については見直しを図りながら、さらに充実したものになるようにしていく。

No. 8 「『早寝・早起』『職員』など、健康的な生活習慣を育む取組を行います。」について

健康的な習慣の育成について、児童、保護者は高い評価をしているが、教職員は、工夫改善の余地があると捉えている。全体指導に加え、保護者と連携した個別の指導・支援にも力を注いでいきたい。

No. 9 「メディアコントロールの習慣や情報モラルを身に付ける指導を充実させます。」について

本校では、「ネットゲーム宣言」や「我が家のきまりを決めた取組」、学年の発達段階に応じた情報モラルの指導を行うことを取組の柱にしている。学校での取組期間だけ守っているという評価もいただいております、個人差も大きい。家庭と連携しながら引き続き力を入れていきたい。

Ⅱ まなびフェスト「家庭の取組」結果について

1 「みずから学ぶ子ども」

NO	項目	2学期	1学期	1学期比
1	お子さんの家庭学習が習慣化するよう、家庭での学習環境（場所・時間・声かけ・確認等）を整えている。 ※保護者アンケート肯定評価80%以上	82	78	↑ 4
2	家庭で読書の時間を設けている。 ※保護者アンケート肯定評価80%以上	35	29	↑ 6

【保護者の方から】<○成果 ▲課題 □意見>

1 について

○最近、分からないところがないか声をかけるようにしている。本人も聞いてくるようになった。

○今月から宿題を見ており、問題の解き方などを解説している。

○どちらもテレビが常についているのでなかなか離れられない。

▲声かけが少なくとも、主体的に、宿題を終わらせてから好きな事に取り組む流れが出来ると良いと思う。

▲帰宅後、一人で留守番をしていることがある。その場合は自ら家庭学習をして待つことが難しい為、高学年に向けて根気よく声掛けしていきたい。

2 について

○子どもの読書時間は親も隣で読書の時間を取るようになっている。未就学の弟も、それを見て一緒に読書するようになった。良い影響を受けていると感じている。

○不定期で図書館から借りてきて興味を持ちやすいようになっている。読書する時間は決めていないが、朝起きてから、朝食までの間や空き時間に自ら進んで読んでいる。

▲平日はスポーツクラブや習い事で読書の時間を取るのが難しかった。時間の使い方をもう少し工夫してみようと思う。

□休日など声かけをするように心掛けたい。

□親子で読書の時間を作ってあげたいと思う。

□読書は声掛けしているが、本よりもスマホ、インターネットからの情報の方が効率的。図書館(室)から本を借りる事だけが読書でないと思います。何冊読むかでなく何を讀んだか、興味を抱いたかが大切と考えている。

□まずは10分からでもいいから、テレビやスマホ時間を読書時間にできるようにしていきたい。

□夫婦で声かけ、環境作りなど頑張っているが、親に時間と心の余裕がないので、もっと時間を作ってあげたいが、なかなか難しい。

□興味のある本との出会い、また家族みんなで取り組めるような…読書の時間を設定する工夫が必要だと感じる。

2 「思いやりのある子ども」

NO	項目	2学期	1学期	1学期比
3	家庭内でもお互いに明るいあいさつを交わすよう努めている。 ※保護者アンケート肯定評価80%以上	89	94	↓ -5
4	お子さんの自己肯定感を育むことを意識した前向きな言葉かけを心がけている。 ※保護者アンケート肯定評価80%以上	72	75	↓ -3

【保護者の方から】<○成果 ▲課題 □意見>

3 について

○朝起きたら必ず夜寝る時も必ずあいさつをするようにしている。

○親からおはよう、おかえり、ありがとうなど声かけしていると、子供も同じように挨拶が当たり前のこととして習慣化する。

4 について

○反省する時も多々あるが、今、家庭でも肯定的な言葉掛けを心掛けている。

○ペップトークを意識している。後ろ向きな言葉を発してしまった時は自分を振り返り、素直に謝るように心掛けている。

○お手伝いをしてもらったときは、必ず「ありがとう」と言っている。

▲前向きな声をかけようと気をつけてはいるが、つい悪い方ばかり目について注意してしまう。

□前向きな言葉かけができるように努力したい。

□日頃からペップトークを意識したいです。子どもだけでなく、親も一緒になって明るい挨拶に取り組むことで、子どもも自然とその雰囲気慣れ、元気に挨拶ができるようになったように感じる。

3 「身体をきたえる子ども」

NO	項目	2学期	1学期	1学期比
5	家庭で身体を動かす機会をつくり、励ましたり、見守ったりしている。 ※保護者アンケート肯定評価80%以上	70	78	↓ -8
6	メディア利用について、家庭の約束を決め、守られるよう声をかけている。 (「岩小キッズのネット・ゲーム宣言」) ※保護者アンケート肯定評価80%以上	70	66	↑ 4

【保護者の方から】<○成果 ▲課題 □意見>

5 について

○運動が大好きで常に部屋の中を動き回っている。

○家族でサイクリングをしている。近所のスーパーには自転車で行く。

□できるだけ外で遊べるように声がけをしていきたい

6 について

▲時間や曜日を決めても守れないことが多い。自宅にいとメディア以外の楽しみを見つけられない。

▲甘やかし過ぎたり、約束事も曖昧になったりしているのので、改めて子どもと向き合って約束事を確認したいと思っている。

▲努力しているところだが、ゲームが好きで集中し過ぎて、本人の中での終わらせ方が課題。

▲子供も集中しているため、時間が過ぎそうになる時もある。その時はこちらから声をかけるよう意識している。B&Gの活動も取り入れ、体を動かす機会を増やしている。

○お腹がぼっこりするの嫌だと言って自分から腹筋を始めた。

▲友達と遊ぶ約束をしてきても車で送ってもらおうとするので、せめて歩いて行くように声掛けしかできていない。

Ⅲ 学校経営に関わる評価項目について

NO	項目	2学期	1学期	1学期比
1	学校は、学習や生活の様子などを学校だよりや学級通信、連絡帳、懇談会などを通して伝えている。 ※保護者アンケート肯定評価80%以上	92	98	↓ -6
2	学校は、登下校の交通安全などの安全指導を行っている。 ※保護者アンケート肯定評価80%以上	89	94	↓ -5
3	学校は、学校いじめ防止基本方針に掲げられている取組を行っている。 ※保護者アンケート肯定評価80%以上	92	91	→ 1
4	学校は、外部の人材や環境を生かした教育活動に努めている。 ※保護者アンケート肯定評価80%以上	88	85	↑ 3

○学校は、学習や生活の様子などを学校だよりや学級通信、連絡帳、懇談会などを通して伝えている。

学校だより、学年だより、メール配信に加え、今年度新たに学校ホームページ・学校ブログを通じて、積極的な情報発信に努めた。今後は、HP内にPTAのページを作成し、各種提出用紙をダウンロードできるようにするなどして、手書き作業の負担を軽減したり、引継ぎの際の利便性向上を図ったりするなど業務に効率化にも役立てていく。

○学校は、登下校の安全などの安全指導を行っている。

昨年度まで実施していた集団下校訓練に変わり、引き渡し訓練を初めて1学期に実施した。実施する中で出された課題を受けて、校地内の樹木を伐採するなどの改善策を講じた。また、強風注意報発令下の下校時間帯に風が強かったことから、職員が引率する形で何度か集団下校を実施した。集団下校訓練は実施していなかったが、集団登校を行っていることから、児童は混乱することなく整然と下校することができた。集団下校の枠組みを維持しつつ、状況に応じて臨機応変に対応していきたい。さらに、これまでの災害対応に加え、熱中症や熊出没対応など幅広い危機への対応についてマニュアルの見直しを図るとともに、HP等で周知していきたい。

○学校は、学校いじめ防止基本方針に掲げられている取組を行っている。

「学校いじめ基本方針」に定めている計画に則り、取組を行っていることについて高く評価していただいた。アンケートからのべ60件程度の事案を認知したが、いずれのケースも解消にいたっている。個別の事案に対して丁寧に対応を進めるとともに、いじめを予防する取組にも引き続き、力を入れていきたい。

○学校は外部の人材や環境を生かした教育活動に努めている。

新型コロナウイルス感染症の影響で3年近く控えていた外部の方を招いての学習や授業の公開を積極的に行うことができた。さんさ踊りの指導、南部牛追い歌出前授業、土砂災害出前講座、孫世代のための認知症講座、薬物乱用防止教室、租税教室、キャップハンディ学習、心理学から学ぶ防災学習等、外部の方を招いての学習を実施することができた。また、生活科や総合的な学習の時間における地域学習（見学）や地域行事への参加（消防パレード）等の活動を通して、外部人材や環境を生かした教育活動を展開することができた。次年度以降も学校教育目標の達成を目指し、各学年の年間指導計画や児童の実態に応じた外部講師を招いた学習や、学校の外に出かけての学習を積極的に進めていきたい。